

集会アピール

私たちは、この長野市において「ゆたかな心と学ぶ力を育てる学校図書館をめざして」をメインテーマに学習交流集会をおこないました。学校図書館における様々な教育活動を交流し、学校司書の法制化についても議論を深めました。

2011年3月11日に起こった東日本大震災による犠牲者は、死者・行方不明者合わせて2万人以上にのぼっています。連動して起こった福島第一原子力発電所の事故は、未だ収束の目途が立っていません。被災地では、児童・生徒が通常の学校生活をおくれない事態となっており、とりわけ福島県の状態はより深刻です。

このような状況において、本来力を発揮すべき国政が混迷を続けていることには、怒りを禁じえません。

文部科学省は「平成22年度学校図書館の現状に関する調査」の結果を公表しました。平成20年度の調査結果と比較して、小中学校では、蔵書冊数、図書館職員の配置率が増加しています。しかし、高校ではいずれも後退しており、兼務や退職後不補充が増えて、いっそう厳しい状況にあります。

学校司書部では、学校司書法制化に向けて、2009年度から国会議員に対する要請行動を進めてきました。第177回国会に、5党派16人の紹介議員を通して、請願署名を提出しました。2011年6月1日、超党派の国会議員を含む「子どもの未来を考える議員連盟」「文字・活字文化推進機構」などが参加して、「学校図書館活性化協議会」を設立しました。また、6月6日の参議院決算委員会においては、片山総務大臣が学校司書の正規化について述べています。国会議員に学校司書の法制化運動に対する理解が深まっていることを示しています。

今、専任・専門・正規の学校司書の配置の機運が高まっています。

今集会では、全国のすぐれた実践が交流され、学校司書の役割をあらためて確認しました。大震災という困難な状況の下で、子どもたちや教職員にとって、学校図書館の果たす役割の大切さが明らかになりました。よりいっそうの学校図書館の充実と、それを支える学校司書の法制化に向け、ともに取り組んでいきましょう。

2011年8月7日

2011年度全国学校図書館学習交流集会 in 長野